

特 許 庁

実用新案

81 B 21
(81 A 2)

実 用 新 案 公 報

昭36-1

公告 昭 36.5.18

出願 昭 36.8.2

実願 昭 36-39672

出願人 考案者 山 本 順 治 滋賀市野洲郡守山町
代理人 弁理士 市 川 一 男 外 3 名

(出願人において、権利譲渡または実施許諾の用意がある)

一 輪 自 転 車

図 面 の 略 解

オ 1 図は本案自転車の側面図、オ 2 図は側平面図。オ 3 図は一部を切除した背面図、オ 4 図は一部の部品の内には把手杆の回動部、b は二分把手杆と方向杆との取付装置、c 及び d はペダルとペダル杆との関係を示した何れも説明図である。

実 用 新 案 の 説 明

本案は把手杆、ペダル支持杆等の拡張部を縮小可能にし軽量かつ使用簡便を企図した一輪自転車の構造に関するものである。

図面において、1 はその中央で二分した各一端を方向杆 2 に共に定着し各別にその枢着部から回動して該方向杆と平行に垂下せられるようにしてある。3 は叉状部 3₁, 3₂ を備えたサドル支持杆で、その前端の環状部 4 は方向杆に嵌合して螺着されている。5 は他のサドル支持杆 6 との交叉遊着部で、その前端環状部 7 はスプリング 8 を介し支持杆 9 の下部において方向杆に上下自由に嵌合されている。9 は単体枠 F に定着した土除板で、タイヤ 11 の上方に設けその前後の各端部に近く土掻き滑車 10 を枢着し、滑車の溝部でタイヤを軽く挟んでいる。12 はペダル杆で、その一端は車軸 A の外側部に固着されている。そして杆の下側には雄螺子 13 を設けかつ下端には切溝部 17 が切込んである。14 は雄螺子部に螺合する雌螺子筒で、この雄螺子部を昇降可能にしてある。15 はこの雄螺子部と同径の雄螺子でペダル支持杆 16 に設けたもの、ペダル支持杆はその両側を平行に削除し、前記切溝部 17 の間に嵌入しピン 16 によつて枢着し回動自由にしてある。なお 18 は方向杆 2 の上端に設けた割込溝、19 はこの割込溝の下側に嵌着した蝶形環

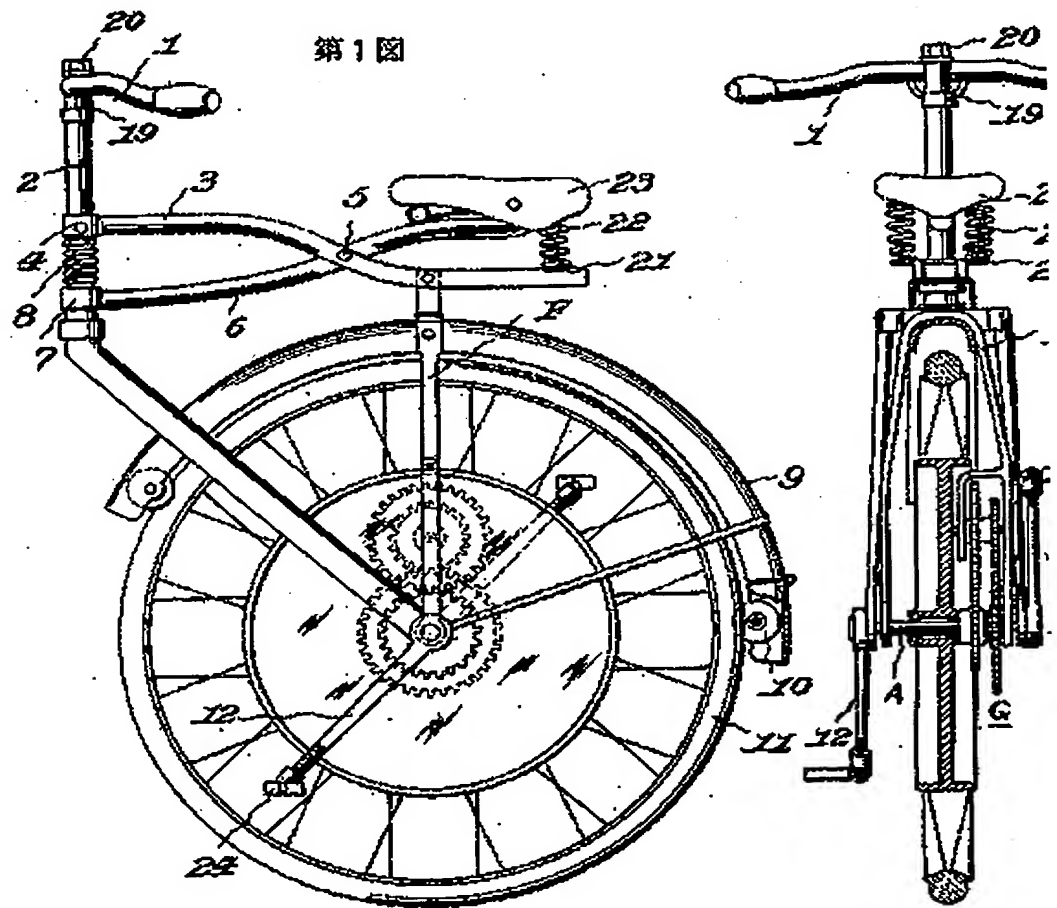
本案は従来の一輪自転車のなるもので、まず中間で枢着端部をスプリングを介してその方向杆取付部の中間にもスっているその緩衝効果は極二分された把手杆は、オ 4 図方向杆上端の割込溝に、蝶形環に枢着された図の右側把手の嵌入段部に左側把手杆の逆を合致して小螺子 20 で図 a の金に使用時の把手杆を形成す持杆はオ 4 図 c, d に見るよう、場合からこれを使用の状態 c における雌螺子筒 14 を螺上しペダルを下部に定着しているのある反対側にピン 16 を軸と起し、螺上してあつた雌螺子筒部を以てペダル支持杆の上側支持杆はその位置において不は完全に使用の状態になるため把手杆やペダル支持杆のうとするときは概ね前記操作い。このように拡張出部を縮小は元より、狭量な場所における急坂等における押る運び等がある。さらに普通の二輪自転車に凹凸がある場合二図の上を生ずる率が多いが、一輪自転車だけで済むからこれが半一輪で最初は不安定のようにと突に軽快に使用できる。

登録請求の範囲

図面に示すように、把手杆1を二分して取付けた方向杆2に、叉状部3、3₂を備えたその後端部にスプリング22を介在させたサドル支持杆3の前端部4を定着すると共に該支持杆に枢着5交叉する他の支持杆6の一端7を毛スプリング8を介し

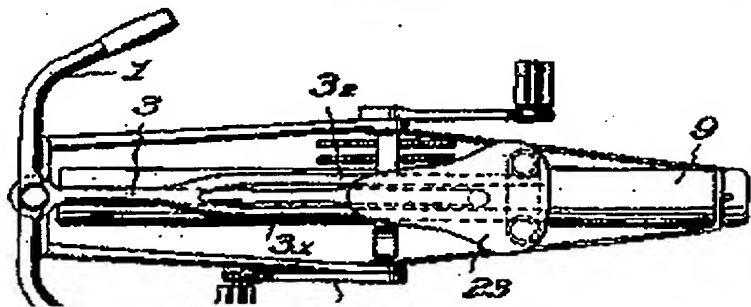
て遊嵌し、土除板9の前後に滑対設し、ペダル杆12の下部に設けた筒14を螺合し、一端に同径の雄雄ル支持杆16を、前記ペダル杆の嵌し回動可能に関着してなる一

第3図



第1図

第2図



第4図

